

ろにあるのは、バンクーバーから約百十二キロのウイスラー・マウンテン。一番長いスロープが九・六キロ、ダウンヒル・スキーの最大落差が一三一メートルもある、本格的な山岳スキー場だ。ケベックのモン・トレンブラン・スキー場（モントリオールから北へ一四五キロ）とモン・サンアン・スキー場（ケベック市郊外）も六一〇メートル以上の最大落差をもつ最大規模のスキー場で、



フランス料理などフランス的雰囲気がある。

スキーやホッケーがカナダのウィンター・スポーツあるいは戸外娯楽のすべてでないことはいままでもない。昔は生存のための技術であったものが、スポーツや余暇活動にとり入れられたものもある。例えば犬ぞり競争。極北のごく一部の地域を除けば、犬ぞりは過去のものとなり、モーター付きトボガンがそれに代わった。

しかしスポーツとしての犬ぞり競争は盛んだ。もちろん雪上車（スノー・モビル）競争もある。

カナダ人なら、老若男女を問わず一度や二度は必ずやるのがスケート。カナダが、数々の世界チャンピオンを生んだ曲すべりを一生懸命に練習する熱心なスケーターもいるが、ほとんどの人はただ楽しむため、あるいはホッケーの腕（足？）をあげるかスピード・スケート大会に参加するためだ。オタワのリドー運河は、冬になると世界最長の人工スケート場（七・二キロ）にかわり、晴れた日には一万余人越す人々がスケートを楽しむ。中には運河

雪ぐつ競走

トボガン



もともと北アメリカ北西部のインディアンが、主に食糧や衣類などを運ぶのに用いた幅広の木製ソリ。かばの木の板で作られた厚さ一センチ、幅三十七センチ、長さ一メートル八十センチぐらいのソリで、犬や人間が引いていた。最近では雪の傾斜面を滑降するスポーツあるいはレクリエーションに使われることが多い（このスポーツをトボガンという）。座って、あるいは腹ばいになって乗り、体でバランスをとったり、両足で操作しながらかじをとる。一九六四年のインスブルック冬期五輪から正式種目になったリュージュと似ているが、リュージュはトボガンより幅が狭く、また仰向けに寝て滑降する。



雪深い地方で歩行用に使われる雪ぐつ。近代的な交通手段が発達するまで、幅広く利用されていた雪ぐつは、今、雪山登山や雪ぐつレースなどに取入れられ、ウィンター・スポーツとして楽しまれている。写真は北極冬期競技大会で走る雪ぐつ競走の選手。